高齢化について

余市医師会　理事
林病院　理事
林　　秀一郎

余市医師会は余市町、仁木町、古平町、積丹町、赤井川村の５ヵ町村を医療圏として、この地域の基幹病院である余市協会病院のほか、内科、小児科、整形外科、皮膚科、眼科、脳外科、耳鼻科、精神科の２病院19診療所の医療機関があり、協力して地域の医療を担っております。医師会の事業としては、学術関係は医療者向けの学術講演会、余市カンファランス、地域への各種講演会を開催しています。なかでも、余市カンファランスは、有志の先生方が２ヵ月に一度程度集まり、毎回専門分野の「診断や治療法」「症例報告」等を発表し、時には「海外の貴重な経験談、お国事情」等も聴ける会で、すでに80回を超え開催されており、基礎的なことから最新の情報までさまざまな情報・知識を得ることができます。終了後の懇親会もいつも盛会で、情報交換等の場としてもとても有用な会だと思います。地域社会活動は、輪番制による休日当番医、学校等の検診、予防接種事業等や、医療人育成事業などを行っています。また、地域の救急医療の整備・維持に関しての取り組みも積極的に行っています。福利厚生では、各医療機関の職員の労をねぎらうための従業員永年勤続表彰を行い、また、歯科医師会、薬剤師会と合同で、ゴルフコンペとパークゴルフ大会を開催し、特にパークゴルフは老若男女和気あいあいとプレイを楽しみ、普段なかなか顔を合わせることのない方々との交流もできて楽しい会になっています。

以上、簡単ですが当医師会の現状と活動について報告させていただきました。ここから少々話が変わってしまい申し訳ありませんが、精神科をやっていて思う、最近の高齢化にかかわることについて書かせていただきます。

私が診療している病院は入院病床140床の精神科単科の病院で、余市町に昭和57年に開業しております。現在、その余市町の総人口は年々減少しいまや20,500人程度となり、高齢化率も30％を超えています。近隣の町村も同様で高齢率が40％を超えている町もあります。

私は精神科医として平成５年から当地で診療に当たっていますが、ここ数年、患者さまの高齢化にかかわる問題が切実になってきました。まず、世帯の高齢化、単身高齢者世帯が増加し、当然、高齢化が進めば認知症に罹患する方が増えるわけです。外来診療では、認知症の診断、治療、周辺症状（幻覚妄想、せん妄、徘徊、興奮など）の治療を行う頻度が多くなっています。精神状態が悪く在宅での生活が困難な場合は入院となりますが、入院することによって環境が変わり認知機能や身体機能が低下してしまうこと、また、周辺症状が改善しても単身生活が可能な状態に戻すことができないことも多く、入院が長期になってしまう問題があります。なんとか退院へ向けて看護、治療を行っていますが、どうしても認知症は進行し、身体的には老化が進み、嚥下機能が低下し誤嚥を繰り返すようになり、経口摂取ができなくなるケースが多くなっています。看護、介護の労力が増えてしまい本来の精神科的なケアに支障が出てきています。病院として看護体制を変えて対応していますが、このようなケースの増加に対応しきれないのが現状です。マンパワーを上げれば解決することもあり、そうしていきたいのですが現在の診療報酬体系では経営的に難しい状況です。

しかし、今後も高齢化が進み認知症も増えていくにあたり、地域のためにも精神科病院だからこそできる治療を行っていきたいと思っているので、医師会の諸先生方はもとより地域の医療・介護関係の皆さんと協力し合って、より良い療育環境をつくっていけたらと思っています。